

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	61	実施計画番号	3
事務事業名	温泉や自然を利用した環境整備		事業開始年度 23
担当課名	観光推進課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	十和田市観光基本計画	関連事務事業	
背景や経緯等	自然の保全に努め、観光客が安心・安全・快適に自然と触れ合えるような環境の整備や、市民や観光客が気軽に魅力を体験できる自然や温泉などの資源を活用したプログラムの提供が求められている。		
事務事業の目的	奥入瀬溪流等の美しい自然資源及び温泉資源を活用するとともに、癒される環境整備を進める。		
実施状況	事業者と連携しながら、魅力的な観光コンテンツの発掘と磨き上げを図り、市民や観光客に提供する。具体的な観光コンテンツ(観光商品)としては、奥入瀬溪流散策や苔玉作りなど。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	12	12	12
	人件費(千円)	432	432	432
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)	0	0	70
うち一般財源	0	0	70
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	0	0	0

【指標】

活動指標	活動指標名①	イベントウィーク参加者			
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
		人	1,760	1,760	2,000
	活動指標名②	湖水、焼山エリアで楽しめる観光商品			
成果指標	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		人	2,000	2,000	2,000
			1,760	1,760	0
			88%	88%	0%
成果指標	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		種類	50	50	50
			35	35	
			70%	70%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	61
計画No	3

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当事業は、十和田湖・奥入瀬地区での観光客の滞在時間の延長、消費活動の促進のためには不可欠であり、また、民間事業者が主体的に様々な取り組みを行うことでなお一層の地域活性化につながる。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	2 / 4	当事業は、十和田湖・奥入瀬地区での観光客の滞在時間の延長、消費活動の促進のためには不可欠であり、また、民間事業者が主体的に様々な取り組みを行うことでなお一層の地域活性化につながる。	
	存在意義の見直しの余地	2 / 4								
当事業は、十和田湖・奥入瀬地区での観光客の滞在時間の延長、消費活動の促進のためには不可欠であり、また、民間事業者が主体的に様々な取り組みを行うことでなお一層の地域活性化につながる。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	C	0							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">民間事業者が主体的に様々な取り組みを行うことでなお一層の地域活性化につながる。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	民間事業者が主体的に様々な取り組みを行うことでなお一層の地域活性化につながる。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	民間事業者が主体的に様々な取り組みを行うことでなお一層の地域活性化につながる。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">民間事業者の主体的な取り組みを後方支援することにより、経費をかけずに効率性を向上している。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	民間事業者の主体的な取り組みを後方支援することにより、経費をかけずに効率性を向上している。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	民間事業者の主体的な取り組みを後方支援することにより、経費をかけずに効率性を向上している。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田湖・奥入瀬という広いエリアを捉えていることから、特定の団体等を対象として業務を行っておらず、受益の偏りは無い。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	十和田湖・奥入瀬という広いエリアを捉えていることから、特定の団体等を対象として業務を行っておらず、受益の偏りは無い。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
十和田湖・奥入瀬という広いエリアを捉えていることから、特定の団体等を対象として業務を行っておらず、受益の偏りは無い。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					16 / 20	改善の余地	4 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由 十和田市の重要な課題である十和田湖・奥入瀬の活性化に結びつくものであり、今後も事業者との連携を図りながら取り組むことが妥当であり、継続するべきと考える。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 十和田湖・奥入瀬の自然と触れ合えるような環境整備を図り、合わせて温泉などの資源を活用したプログラムを観光客に提供することにより、滞在時間の延長と消費活動の促進を図る。